

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害者福祉費

事業名 長良川ふれあいマラソン大会支援費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111(内3484)

E-mail : c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,150 千円 (前年度予算額： 1,150 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,150	0	0	0	0	0	0	0	1,150
要求額	1,150	0	0	0	0	0	0	0	1,150
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

大会運営は、障がい者団体が主体となり、地元の海津市をはじめ、多くのボランティア等の協力により運営がなされ、障がい者の社会参加と自立を促進し、県民の障がい者福祉に対する理解を深めるのに有意義な大会となっている。

(2) 事業内容

福祉への理解の輪を広げ、障がい者の社会参加意欲を高め、県民の障がい者福祉に対する関心を深めることを目的に、ハンディのある人もない人も共にマラソンに参加し、ふれあいを深める本大会への支援を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	1,150	長良川ふれあいマラソン大会開催負担金 1,150千円
合計	1,150	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ハンディのある人もない人も共にマラソンに参加し、ふれあいを深めることで、福祉への理解の輪を広げ、障がい者の社会参加意欲を高め、県民の障がい者福祉に対する関心を深めることを目標としています。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H5)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①参加者数	0	734	1,000	1,000	1,000	73.4%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	○取組内容（大会の開催、参加人数等） ・令和4年10月1日（日） 木曽三川公園特設会場にて開催 ・参加者 750名 ○成果 障がいのある人もない人も共に走り、ふれあうことで県民の障がい福祉に対する関心が深まった。
	指標① 目標：1,000 実績： 750 達成率： 75 %
令和5年度	○取組内容（大会の開催、参加人数等） ・令和5年10月1日（日） 木曽三川公園特設会場にて開催 ・参加者 779名 ○成果 障がいのある人もない人も共に走り、ふれあうことで県民の障がい福祉に対する関心が深まった。
	指標① 目標：1,000 実績： 779 達成率： 78 %
令和6年度	○取組内容（大会の開催、参加人数等） ・令和6年10月6日（日） 木曽三川公園特設会場にて開催 ・参加者 734名 ○成果 障がいのある人もない人も共に走り、ふれあうことで県民の障がい福祉に対する関心が深まった。
	指標① 目標：1,000 実績： 734 達成率： 73 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	障がいのある人もない人も参加できる特色のあるイベントで、地元や団体からも歓迎されていることから、今後も事業を推進する必要がある
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	右肩上がりではないものの、参加者1,000人規模の大会として定着し、効果が現れている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	インターネット登録の利用等、参加者の拡充に工夫を凝らし、参加費の拡大などによる経費の削減を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

コースの設定(周回数)や、給水所の設置位置、走者と走り終えた者との動線等、より安全に競技を進める為の工夫を兼ねていくことが必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
参加者である車いすランナー、地元や各障がい者団体の意見を反映し、充実を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	